だからわたしは、フィクションを読むのが好き。本のなかぐらい、幸せな終わり方をしてほしい。たとえまったく信じがたい話であっても

『海を見た日』M.G.ヘネシー作　鈴木出版　2021

2022年5月　　眞鍋由比

５月は母の日がありますね。何かプレゼントしたりしますか？ この物語の４人はお母さんにプレゼントを渡せない子たち。それぞれ事情があっていまのミセスKのうちで暮らしている。里親制度と言って養子ではないのだけど、一時的に子供を預かる制度。クエンティンがこの家にやってきたときから物語は始まる。

健気に自分の将来設計を立て、頑張って奨学金をもぎ取って大学に行くために必死で勉強し、ミセスＫがやるべき家事まで請け負っているナヴァイア。 いつもうるさいくらい元気でスパイになりきっているヴィク。スペイン語しか話せなくていつもだまっている小さなマーラ。そしてママがいったことを忠実に守って、ママに会いに行こうとする、誰にも触れられたくないし触りたくないクエンティン。彼らの里親であるミセスＫは決して裕福ではなく、仕事先でも心無い雇用主にいじめられています。

ナヴァイア、ヴィク、クエンティンの三人の視点でこの物語は進みます。悪人は誰もいないけど、厳しい現実のなかそれぞれが一生懸命に生きている。ナヴァイアが『穴』という小説についていった言葉が上の２行。彼女は母親に早くに死に別れて、虐待ともいえるひどい里親のところを転々として今の家にいるので、かなり現実主義者。頼りになるお姉さん。だからこそ、刑務所のようなところに入れられていつも穴を掘らされている『穴』主人公たちが復讐できますように、と祈るんだけど、この『穴』は傑作です。ぜひ読んでほしいし、映画も見てほしい。ＤＶＤがうちの図書館にあります。

クエンティンがスターウォーズ、ヴィクが007、エヴァイラがブラックパンサーのファンなのでそれぞれの描写もちょこっとでてきます。
クエンティンが母親に会いたがっていると知ってヴィクが会わせてやろうと計画を立て、遠出をするのが冒険の始まり。知らない街で怖い目にあったり、痛い目にあったり。「つまり、これがわたしたちの生きる道。心おどる何かを見つけても、そこに自分の手は決してとどかない」182ｐといろいろなことをあきらめていた彼ら。現実は甘くはないのだけれど…

今年の中学の全国読書感想文の課題図書です。アメリカの里親制度を知って、かつ日本のことやあなたのこと（気持ち、状況、意見、提案）を書ければ大丈夫。自分と同じ？こんなに違う？こうすればいい？　課題図書は中学・高校ともそろっていますのでぜひ借りて下さい。お早めに。

注：作中でチョコレートバーを犬にあげる描写が気になっています。チョコレートは犬には毒。犬にチョコレートを食べさせるのは危険だ、ということは知っておいてください。（犬を飼っている人ならよくご存知だと思いますが）